

## 釧路港で年越し

電波高校を卒業した年の大晦日、乗っていた底引きトロール船第二磯丸は北海道釧路港に入港、新年を迎える事になった。

冬の北海道沖の操業は辛い。私は通信士だが、宮古漁業用海岸局と定時連絡、気象情報受信、仲間の漁船との情報交換等以外は、デッキに出て手伝わなければならぬ。ゴム合羽、長靴で完全武装、交代で仕事をする。

晴れていれば、北海道の陸地が微かに見える筈だが、毎日の様に荒れ模様。冬の北海道沖は、吹雪の日が多いから、大海の真ん中で、一隻で操業しているように感じられる。

風速十米位あると頭から大波を被る、働いて居ると余り寒さを感ぜない、むしろ汗をかく。

大風になると操業停止。船を風上に向けエンジンを微速にして支える。波高が十米以上のが来ると、波と船を直角にして支えなければならぬ、船が十米位上下する。波と並行になったら転覆だ。その時は、船長かベテランの船員が操舵する。エンジンが止まったらおしまいだ。

私は冬の北海道沖の出漁は一年だけだったが、よくも生き延びて来たものだと、思いを新たにす。

釧路は寒い。元旦の朝は零下二〇度近くあったと思う。朝起きて無線室兼居室の扉を開けようとしたが、凍りついてビクともしない。内側から重いものでドンドン叩き、やっと外に出られたのが、昨日の如くに思い出される。

北海道は他に、室蘭と、浦河に入港しただけで、平成九年に札幌雪祭りに二郎に連れて行って貰うまで、内陸部には行った事がない。なかつた。

釧路で年越し、元旦を迎えたのは昭和二五年、私が二五才の時であつた。